



みなさんの『昭和を思い出す品』を教えてください

TATSUOTO

数え上げればきりが無い中で、いまだに印象深い思い出の商品が幾つかあります。(^^; 私にとって、一番思い出に残るのが「洗濯機」しかも手動です。メーカーは「カゴメ」という製品で、ハンドルが付いており、洗剤と一緒に洗濯物の中に入れ、10分ぐらい廻します。その後、蓋を開けると『ボン!』と音がして泡が飛び散るのでした。今までの洗濯板に比べ、何と近代的な機械だと感心した記憶があります。



しかし、その後電動の洗濯機が発売され、ハンドルを廻すのは絞る時だけになってしまいました。意外と、販売されていた期間が短かったので、記憶に鮮明に残っています。ハンドルといえば蓄音機やカメラも手動でした。今ではほとんどが電池で自動になっており、電気のない世界では使い物にならない製品ばかりです。

同じように、初期の冷蔵庫も印象深い製品です。街中で売っている氷を買ってきて、冷蔵庫の中に入れるだけの簡単な製品です。これも寿命が短かったような記憶があります。本格的な電化製品になる前の、アナログ的な製品が、昭和の商品として思い出されます。トランジスタラジオに移る前の真空管式ラジオや、ダイヤル式の電話など、映画のセットでもなければ最近は見かける事が少なくなりました。



商品ではありませんが、昭和というと『蒸気機関車』の全盛時代です。(^^)

中学から高校までの機関、随分と追っかけをやっていました。街中で蒸気機関車の汽笛を聞くと、自転車に乗って飛び出だした頃が懐かしい……

あとは、「フラフープ」や「ダッコちゃん」もあの頃の商品ですネ。プロレスの試合を見るのに、食事時にテレビを見るために、同級生のお家にお邪魔した事が懐かしく思い出されます。近所付き合いが希薄になった今日この頃、あまりにも物が多すぎ、人の情けが当たり前のよき時代を懐かしんでいます。



「昭和」

ああ、それに「ジープ」もあったねっ！て言うのは、相当な長渚ファンだ。「昭和」の思い出ってのは、結構、時間のスパンが長いよ。甘酸っぱい青春時代から酸っぱい中年時代までがそうだからね。子供の頃には1円札があって五拾銭銅貨がありましたなんてのは、健ちゃんの意図するところとは違うんだろうな。

自宅に残されていた五拾銭銅貨でも見せちゃいましょう。「昭和」と言うより大正ロマンって感じですが。さて、製造年代によって銅貨の大きさや材質が違うようですよ。マニアじゃないのでこれらの市場価格は知りませんが、たぶん銅貨の額面通り五拾銭だろうね。

明治の時代は切手と同じ「龍紋」だ、明治の後半になると「旭日紋」に変わっていく。珍しいっていうか、大正元年の区切りの貨幣。大正13年ともなると景気の変動の所為か、少しサイズが小さくなります。今まで旭日の周りを飾っていた桜の花が文字の区切りの2個に限定されます。子供の頃には大きい銅貨も混じっていたと思います。そして昭和に繋がっていきます。

「昭和」がテーマなのに申し訳ないが中には明治の時代のものも含まれている。これで思い出すのは、子供の頃に兄貴が持っていた江戸川乱歩の「二銭銅貨」だ。家にあるのは十銭銅貨と壹銭銅貨。

多分、小学校高学年か、中学生の初めに読んだ記憶がある。この短編が江戸川乱歩の唯一の本格推理小説だと評価されていたのを何かで読



明治4年龍紋大貨



明治43年旭日紋中貨



大正元年旭日紋中貨



大正13年旭日紋小貨



昭和11年旭日紋小貨

んだ記憶がある。で、五拾銭で何が買えたのかというと、1.5センチ大の飴玉がふたつ。それも紐の束が上のほうで縛ってあって、その中の一本を引き抜くと大きさの異なる飴玉が付いてくるって寸法だ。

今のお菓子のように無茶苦茶な甘さはない。いわゆる麦芽糖ってやつでほんのりとした甘さだ。上品だったね、うさおに似て。

森永のキャラメルが当初 5 円だったと思うのだが何時の間にやら 10 円になっていた。この価格は結構据え置かれていたのだが、短いサイズのキャラメルは影を潜め、このような長いサイズの 20 円のパッケージに変わった。

今、120 円だと思うけど。明治はさいころキャラメルだったね。これらはお金持ちのお坊ちゃんのステータス・シンボルだったと思う。



で、昭和の思い出と言うと、やはり高校時代の美術部に在籍していた時代だ。一時は男子 3 人に対して、女子 27 人の素晴らしい環境だった。環境が良いと言うことと素晴らしい時代を過ごしたと言うことは、違うと言うことを如実に判らされたのもこの時代だ。素晴らしくて鬱陶しい時代だったのだ。美術の先生は感性がまともでないうさおの画才を認めてくれた数少ない人で、大学に進学の折、美大を受けたら如何かと本気でアドバイスしてくれた。うさおは「親父が手に職を付けた方がよい。それなら工科系に進みなさい」と言う教えを守って、「建築科に進みます！」と文系の人間でありながら工学部に進んでしまったのだ。それは兎も角、高校の学園祭でうさおは美術部で父兄に出展した油彩絵を買ってもらい部費の足しにしようと提案したのだ。自慢話になるがこのとき絵が売れたのはうさおの絵だけであった。えっへん。自慢のように聞こえてなんだか嫌だなあ…へっへっへっ。

買ってくれたのはその当時の P T A 会長だった。

購入した絵の額を選んでくれたのは美術の先生だった。額の方が絵よりも倍くらい高かった。会長は君の将来に投資が出来たよと言ってくれた。泣けた。

期待は見事に裏切らせてもらった。

この前、高校時代の連中と同期会を行った。顔を思い出せなかったが、橋本と言う奴がいた。俳句で生計を立てているという。選者もやっているんですよとのこと。

へええ、yuko 宗匠になら判るのかなあ、橋本栄治著「麦生」が一番有名なんだって。NHK にも出ていたと言う。おいおい有名人ジャン。「麦生 (むぎう)」とは生まれ育った横濱・生麦を、業界用語で逆さまにしたのだ。

自分以外の他人は青春していたんだなあと思った。あの当時から絵のほうに行っていたら、青春だったのにね。





人生の 2/3 以上を昭和という時代に過ごしてきたので、いろいろな昭和を思い出します。最近ではマンガや映画などで昭和ノスタルジアが盛んですが、思いつくだけでも最近の「20世紀少年」、「三丁目の夕日」、それに「K-20」。最後のは戦前の昭和が舞台のようですが、前2者は戦後の高度成長期の昭和です。

自分も戦前の昭和は幼稚園生の年代で、少ししか知りませんが、戦後になって、親戚の家にあった「少年倶楽部」やその付録はいまでも思い出に残っています。吉川英治や高垣陣の少年剣士の物語があったように思います。

戦後のものでは、いま見かけられない絵物語があります。「砂漠の魔王」というのがそれで、アラジンと魔法のランプのパステリーシュなのですが、当時の近代装備の戦車や戦闘機をアラブの王様のようなコスチュームの魔王が撃退する場面は手に汗を握る場面でした。

ここでズルしてウィキペディアから引用してみましょう。

『[砂漠の魔王](#)』（さばくのまおう）とは[福島鉄次](#)作の長編[絵物語](#)である。[1949年-1956年](#)の間、月刊「[少年少女冒険王](#)」（のちの「[冒険王](#)」）（[秋田書店](#)刊）に連載され、その後、単行本（全9巻）となった。

秋田書店の初代社長、秋田貞夫の提案を受け、「少年少女冒険王」の創刊号冒頭をオールカラーで飾った『[ポップ少年の冒険・ダイヤ魔神](#)』が初出であったが、副主人公である巨人に人気が集まり、二回目よりこの題名となり、魔王の活躍が始まる。

物語は『[アラジンと魔法のランプ](#)』に想を得ている。香木を焚くと香炉から巨大な魔王が出現し、[飛行石](#)の力を以って空を飛び、無敵の力を発揮する。彼自身は呼び出した者の命を受けるので、時には主人公であるポップ少年と敵対することもある。

舞台はアラビアともアフリカともつかぬ異郷の地、魔王はターバンを巻き赤いマントを身にまといブーツを履いたアラブ風のコスチューム。四色カラー16ページという豪華な体裁に盛り込まれた異国情緒あふれる背景世界は、その荒唐無稽な冒険活劇の筋立てと共に、終戦直後の少年たちの心を捉えた。後にアニメ映画監督となる[宮崎駿](#)もその1人で、『[風の谷のナウシカ](#)』や『[天空の城ラピュタ](#)』に本作の影響を見出すことができる。

特筆すべきは、グラフィック面である。[アメリカンコミックス](#)に影響を受けた、鮮やかで[キッチュ](#)な彩色、大胆な構図と緻密で立体的な描写、ユニークな兵器のデザイン。これらは世紀を隔てた今も魅力を放っている。

本作は、[山川惣治](#)・[小松崎茂](#)の諸作品と共に、「絵物語」という新ジャンルの端緒を開いた。」

物語はすっかり忘れていたのに、よく覚えている人がいるものだと感心します。

当時、自分は少年クラブを毎月とって、クラスの「少年」や「冒険王」をとっている友達と交換して読んだものです。それで、話は断片的でストーリーはあまり覚えていません。「少年」は江戸川乱歩の怪奇四十面相や手塚治虫の鉄腕アトムが連載されていて一番人気だったと思います。少年クラブはロック冒険記や横溝正史の金田一耕介物「怪獣男爵」などや南洋一郎の「緑のピラミッド」などが連載されていました。

やはり、砂漠の魔王は絵の美しさで魅了させられましたね。

ネットから画像を探して、やっと次のものを見つけましたので、掲載しますね。



これがポップ少年でしょうか？



フィン姫という
そうです。





小生は山川惣治のファンで「少年王者」の復刻版全3巻も持っていますが、福島鉄次の「砂漠の魔王」はレアと思い紹介しました。



ずいぶんと年を取ったなと思う毎日だけれどそんなわたしもまだ「昭和」よりは年下です。昭和は長生きでした。健さん曰くの「昭和」はたぶん「よき昭和」ってことなんだろうね。思うにわたしってあんまり「懐かしがり」ではない。「あの頃はよかった」ともあまり思わない。昭和には若い頃の自分もいるけれど若い頃がすごくよかったかという若さってのは案外せつなかつたりもするわけで。だいたい昭和にはミスチルがないんだよね！これ大事！

そんなわたしにも「昭和の商品」というキーワードから思い出すことはいくつかあります。

小学校の低学年のとき親友の美根子ちゃん（実名です。会いたい）としょっちゅう地元
の国鉄アパート近辺で遊んでたのです。でね、のどがかわくとそこから近かった知り合い
のお家をピンポンして「お水飲ませてえ」と頼むのです。母親からはこれについてはしょ
っちゅう怒られてました。それでもなおかつ行ってしまうのはそのお家がとても素敵で
「パパは何でも知っている」の家のように広くてきれいでお庭があってドラマからそのま
ま出てきたみたいだったから（よく汚い子供を入れてくれたよね。こういう心が広いお金
持っていいよね）。そのお家はM製菓のおえらいさんだったそうで、ある日いつもの通り「お
水飲ませてえ」と行くと「C a c c oちゃんよくきたわね。いいものがあるからあがって
らっしゃい」（この辺はちょ一脚色かも）とおっしゃる。そのイイモノは小さな棒状の筒に
きれいな絵が印刷されていて、おばさんはわたしたちが見てる前でふたをポン！と抜いて
見せたのです。あのポン！は忘れられないっ。中から出てきた初めて見たチョコも、チョコ
が出てくる時のチャラチャラって音も。たぶん私たちの眼はマーブルチョコのように
まんまるになってたはず。



後日、上原ゆかりちゃんのCMが人気爆発。わたしの頭も爆発して「C a c c oこれ食べたんだよ。Mさんちでとっくに食べたんだよ」と天下を獲ったように大騒ぎいたしました。母親は子供の感動に対して「Mさんちに行っちゃダメって言ったでしょ」と冷たい反応。昭和の子供たちってこういう仕打ちによく耐えました。親たちも生活していくことに精一杯で子供のメンタル面の教育なんて考えもつかない時代だったんですね。



素直な感動を表現していた子供時代を経て、自意識過剰ゆえに感情表現が苦手だった二十歳のころ、姉のダンナ（グリコちゃんのパパ）が我が家にカップヌードルなる新製品を持ってきました。四角い炬燵で一家8人が初めて見るカップヌードルを囲み、いざお湯を注ぎました！自意識も吹っ飛ぶ新鮮さだったんでしょうね、今でもありありと当時の場面が浮かんでくるんですから。

高度成長期というんでしょうか、わたしが子供だった頃には驚きの商品がたくさん生まれました。そしてそれは家族みんなで「びっくり」できるものでした。このへんが「よき時代」と言われる所以なんでしょうね。

ところで幼いわたしが夢中になったとっても昭和の匂いがするものをもうひとつ。

ご存じの通りわたしの平成のアイドルはミスチルですが、この頃のアイドルはあの「小林芳雄」くんでした（初代アイドルとっていいですね）。小石をカドカドに置きながら犯人を追跡する小林少年、ちょー胸躍ります。BDバッチや探偵手帳がほしくてほしくてね。中でも小林くんが主役の「大金塊」は何回読んだことか。いったいいくつまで小林くんがアイドルだったのかは定かではありませんが、幼いときからバーチャルアイドルとここじゃない世界で遊んでいたんですね。昭和から平成になり時がどんなに流れても人なんてあんまり成長しないもんだと、昭和を思い出しながらつくづく納得した次第。あたしだけかい？



現実がSFの世界に近づいている今の時代、SF小説はもう生まれないのだからか。

貧しさや不便さがまだまだ残っていた昭和。

わたしたちのほしいものもはっきりと見えた時代と言えるかもしれません。

今回の企画「昭和」はテレカコレクション、ケータイシャシンカンと連動。

続いてお楽しみくださいね！